

お正月の遊びには
由来があるんだね

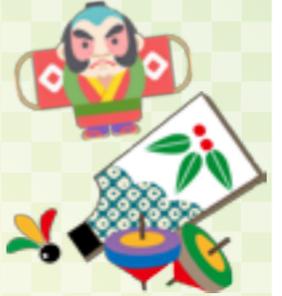
屋外の遊び

たこ揚げ

紀元前2世紀頃の中国で、大きな「たこ」を敵陣まで飛ばしたのが始まりといわれ、日本へは平安時代に伝わりました。地域によって「いか」「や」「たつ」「はた」などの名で呼ばれたそうです。江戸時代に大流行し、絹張りをしたのもや、金銀をちりばめたものなどさまざまなたこが登場しました。子どもの成長を祝い、幸せな将来を祈って誕生祝いに揚げたともいわれています。



ていたん&ブラックていたん



こま

こまの由来には諸説がありますが、一説には唐の時代の中国から朝鮮半島の高麗を経て日本に伝わり、当時の高麗の呼び名「こま」が、語源となったといわれています。遊びだけでなく、吉凶を占う道具として使われることもありました。伝わった当時は宮廷での貴族の遊びでしたが、江戸時代には庶民の間に広がったようです。



羽根つき

昔は蚊などが病気を運ぶと信じられていたため、「ムクロジ」の木の種に羽を付けて蚊を食べるトンボに似せ、これを打ち合せて、厄病除けのまじないとしたのが始まりといわれています。江戸時代になると、歌舞伎の人気役者などの絵が押し絵された飾り羽子板が人気を博しました。ムクロジは無患子(子が患わない)と書くことから子どもを病気から守る意味があったと考えられます。



◆たこを作ってみよう

左右のバランスが大事だよ



官兵衛タン



- 和紙(破れにくければ可)
たこの本体50cm×30cm1枚
たこの足70cm×5cm2枚
- 竹ひご(細い棒なら可)
50cm3本、30cm1本
- セロハンテープ、たこ糸

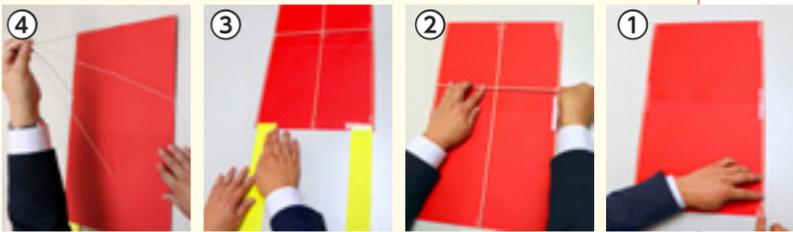
用意するもの

①50cmの竹ひごを、たこの本体の左右にセロハンテープで貼り付けます。

②たこの本体の中心に50cmの竹ひごを縦に置き、30cmの竹ひごを横にして、上から3分の1の所に置きます。竹ひごの上下左右をセロハンテープで貼り付けます。

③たこの足をたこの本体の左右両端に1枚ずつ貼り付けます。

④たこ糸を写真④のように竹ひごに結び付けます。裏返して上下左右の長さがそれぞれバランス良くなるようにたこ糸を1本にまとめます。



◆市内でたこ揚げができる場所の一例

- 勝山公園大芝生広場(市役所南側)
- 大橋公園(戸畑区川代二丁目)

※車や電線など、周囲の安全を必ず確認しましょう。



遊びの中に伝わる工芸品

孫次風

竹内義博さん(北九州技の達人)



「孫次は、私の祖父の名前です。北九州は冬の季節風が強くて、昔からたこ揚げが盛んだっただんです。たこ職人は大勢いましたが、祖父のたこは、よく揚がることに加えて大きく可愛い目のセミヤフグなど、他にはない形と独特な色彩が評判でした。今でも当時と同じように一つ一つ全て手作業で、地元の真竹や女竹と八女などの手すき和紙を使い、自然素材の食紅で彩色して作り上げています。」

伝統の技を守ることは大変ですが、たこ揚げをしている子どもたちの笑顔を見るのがうれしくて作り続けています。このお正月もぜひたこ揚げを楽しんでもらいたいですね。

今年の干支「戌」のミニ孫次風を3人に進呈します。

協力:カイトハウスまじ(戸畑区新池二丁目)

応募方法

はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号、「孫次風希望」と書いて1月5日(金)までに〒803-8501 広報室 広報課へ。

